

数値でみる看護部の取り組み

2025年7月

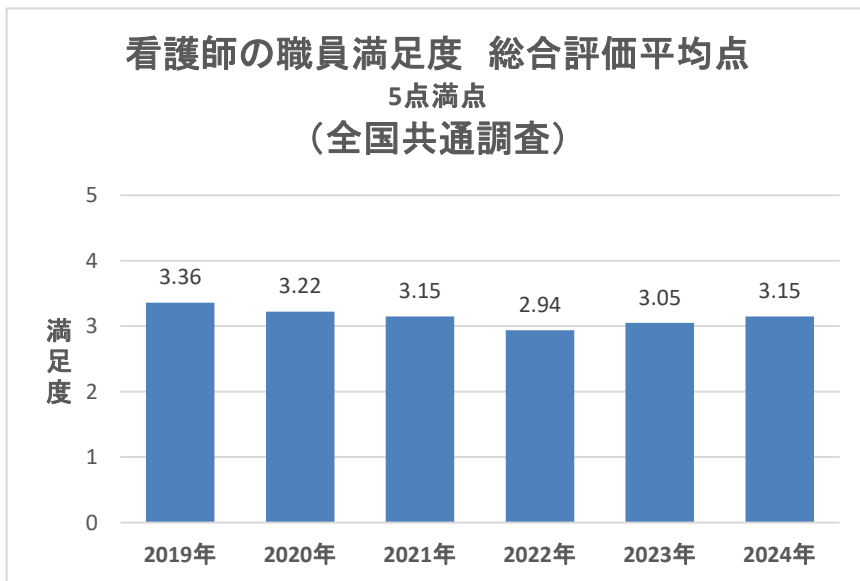
松江赤十字病院看護部は、地域の人々の安心と満足に応えられる看護を提供することを使命としています。組織でこの使命を実現するうえで最も重要なのは「人」です。そのため、看護部では看護職員の教育体制づくりやキャリアアップ支援、働きやすい職場作りに取り組んでいます。また、当院の主たる機能を十分に発揮できるよう、救急・急性期看護の強化、赤十字活動の促進に力を入れています。

そんな取り組みを数値でご紹介します。

看護職員満足に関わる数値

➤ 職員満足度

当院では毎年、(株)ケアレビュー社による全国共通の調査を行い、多方面から数値を分析して職員満足度向上に取り組む体制をとっています。

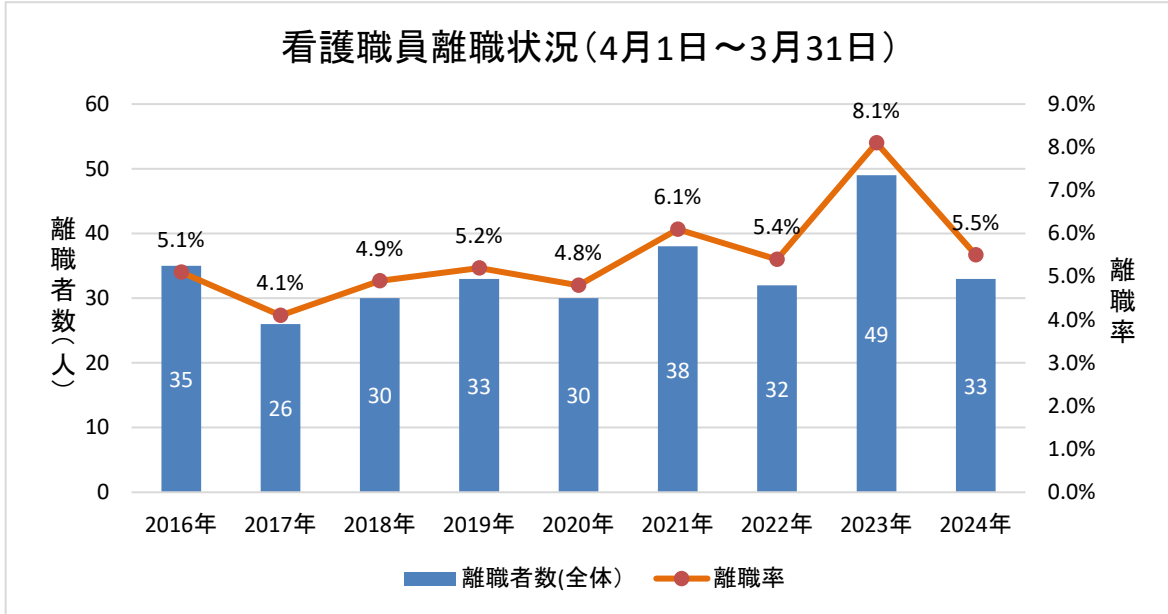


全国の調査参加施設
総合評価平均点(2024年)
全職種 2.92

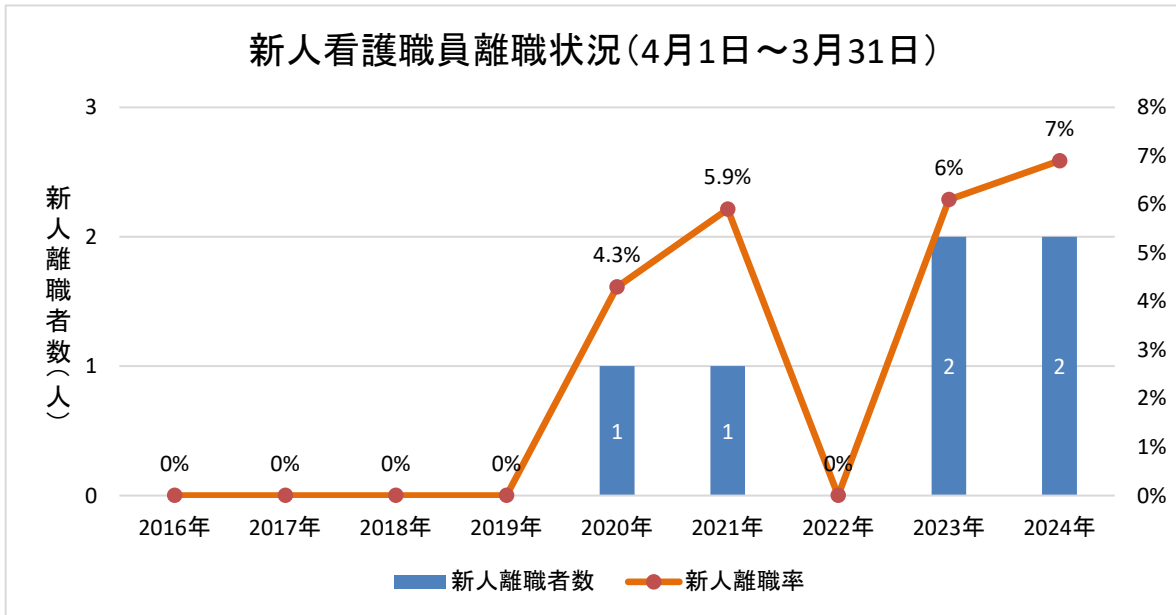
➤ 離職率

離職率は、「この値が極端に高ければ、労働者がその仕事に定着しにくく、入れ替わっていくことが常態化していることが含意され、逆に極端に低ければ、労働者がその仕事に定着し、転職や産業間の労働力移動が行なわれにくくなっていることが示唆される。」と言われます。様々な算出方法がありますが、当院では日本看護協会の離職率算出方法で離職状況を把握するようにしています。

- 看護職員離職率 日本看護協会 2023年調査=11.3%



- 新人看護職員離職率 日本看護協会 2023年調査=8.8%

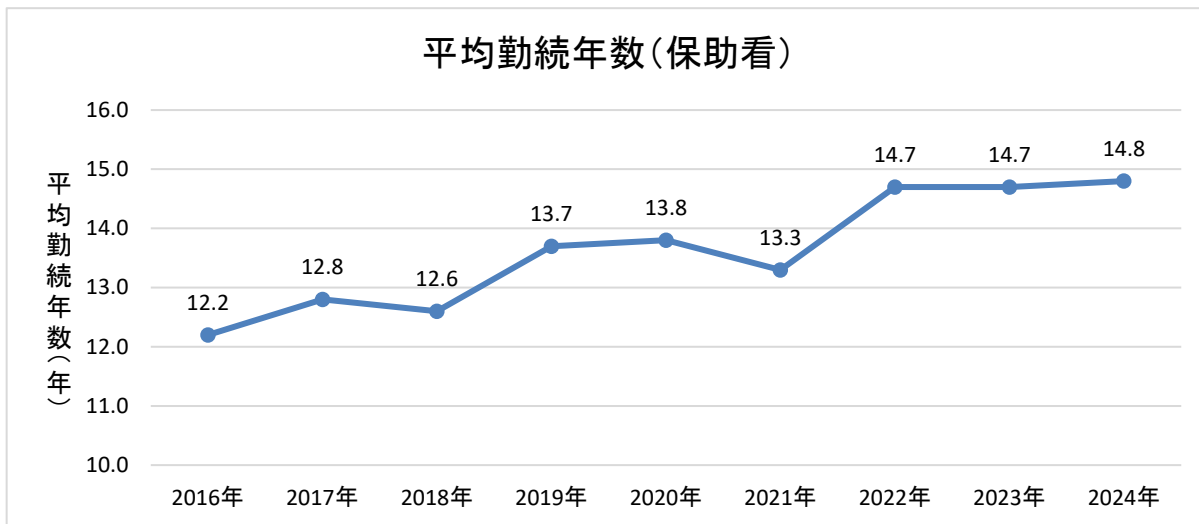


➤ 平均勤続年数

役職者を含む平均勤続年数は『働きやすい職場』の評価指標として捉えています。看護部では毎年10月1日における状況で確認しています。

注) 勤続6年目以降は5年単位で人数調査した結果です。

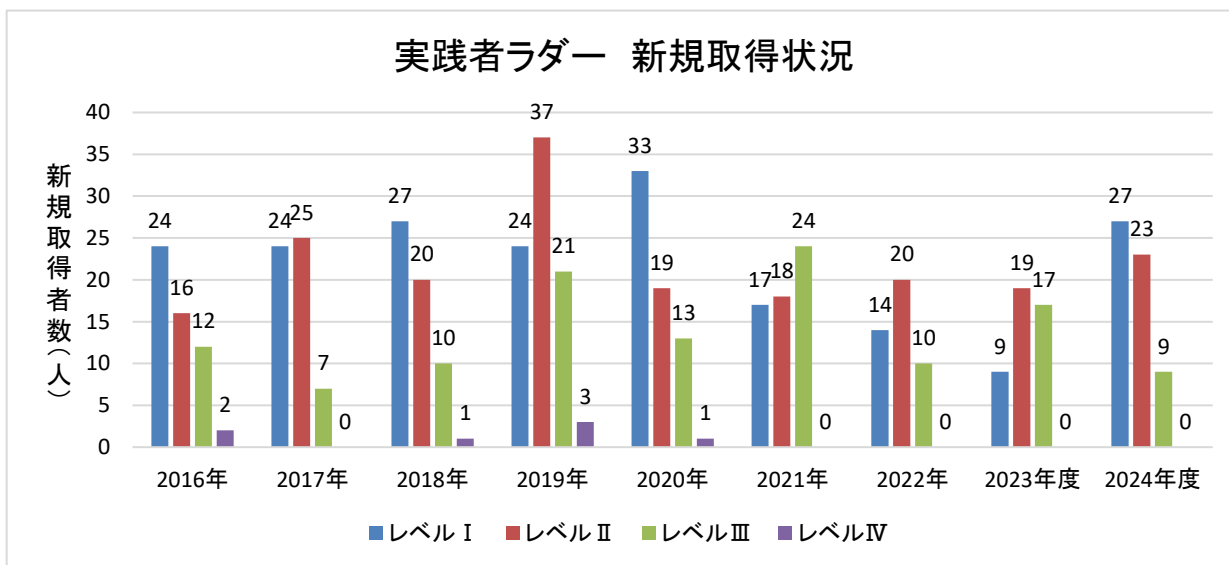
「医療の質評価指標」で表示している「看護師の平均勤続年数」とは若干の違いがあります



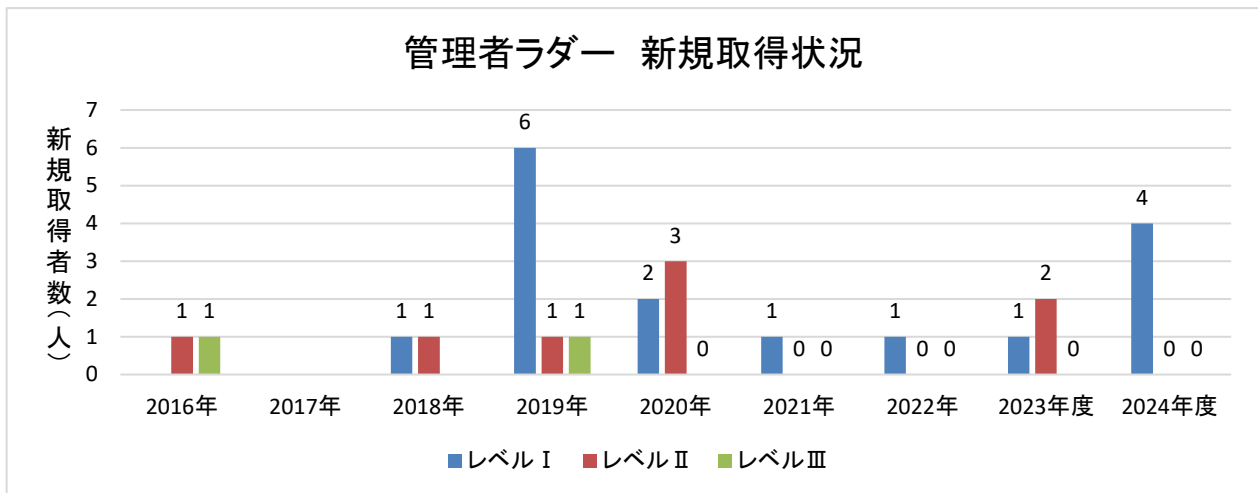
継続教育に関わる数値

全国の赤十字病院には「赤十字施設のキャリア開発ラダー」の仕組みがあります。これは、看護師個々が自分のキャリアを自分で開発できる仕組みで、当院は「実践者ラダー」と「管理者ラダー」を活用しています。全国にある赤十字施設に共通するツールなので、施設間での人事交流やキャリアの継続的な積み上げにも活かすことができます。

➤ 実践者ラダー新規取得状況

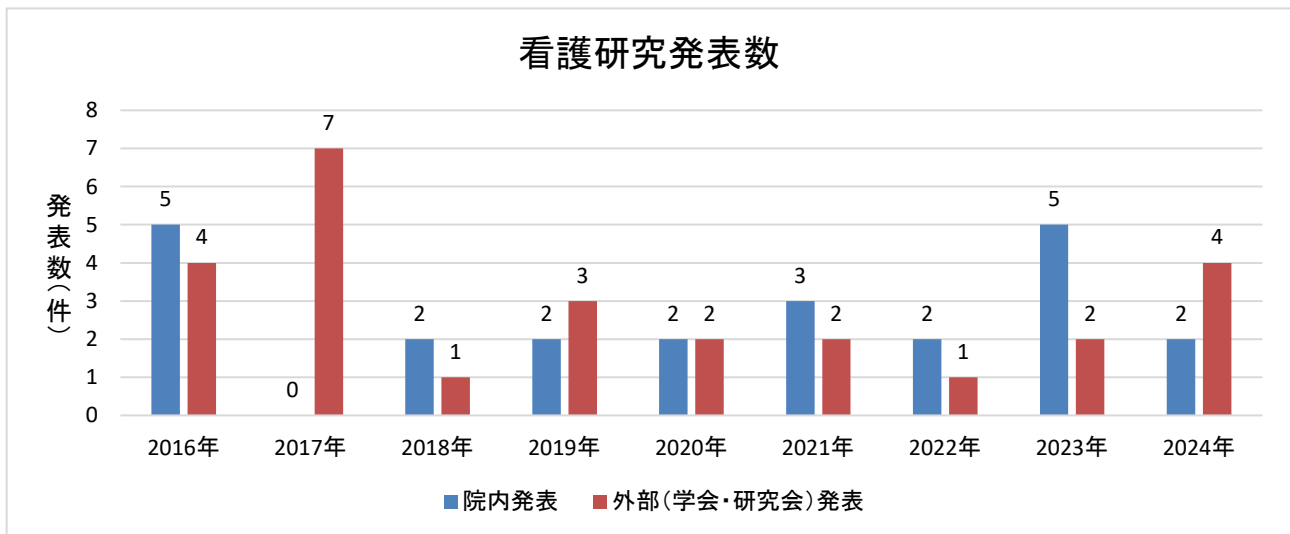


➤ 管理者ラダー新規取得状況



➤ 院内看護研究発表数

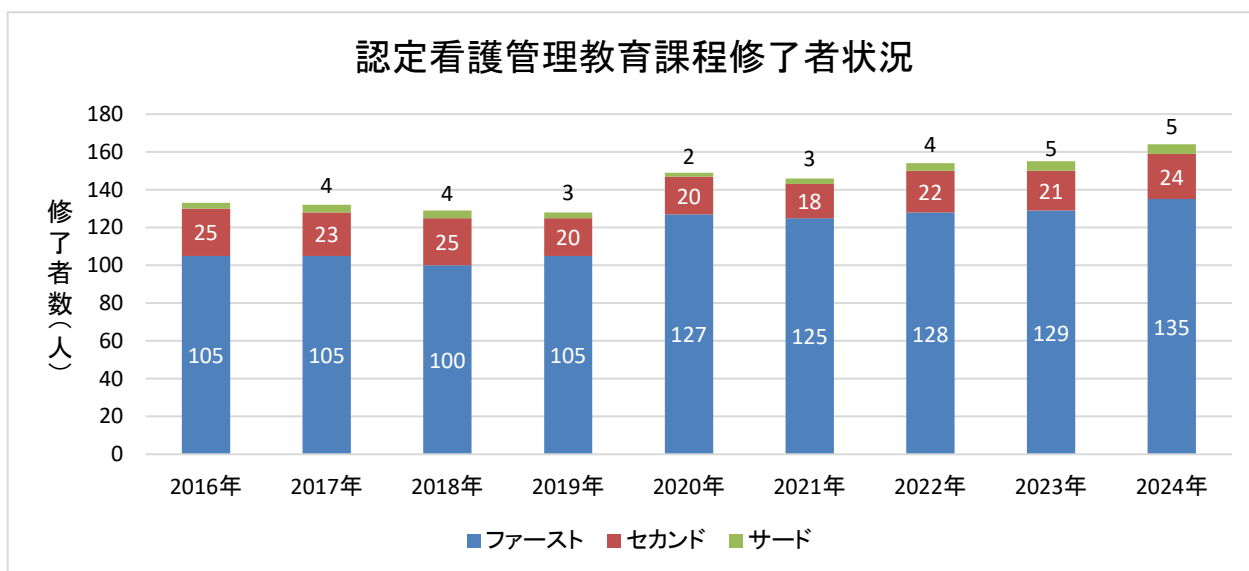
看護研究の取り組みは、テーマ選定から計画書作成、データ分析、論文作成、プレゼンテーションに至るまで、看護研究委員会の委員と外部講師による丁寧な指導で支援しています。



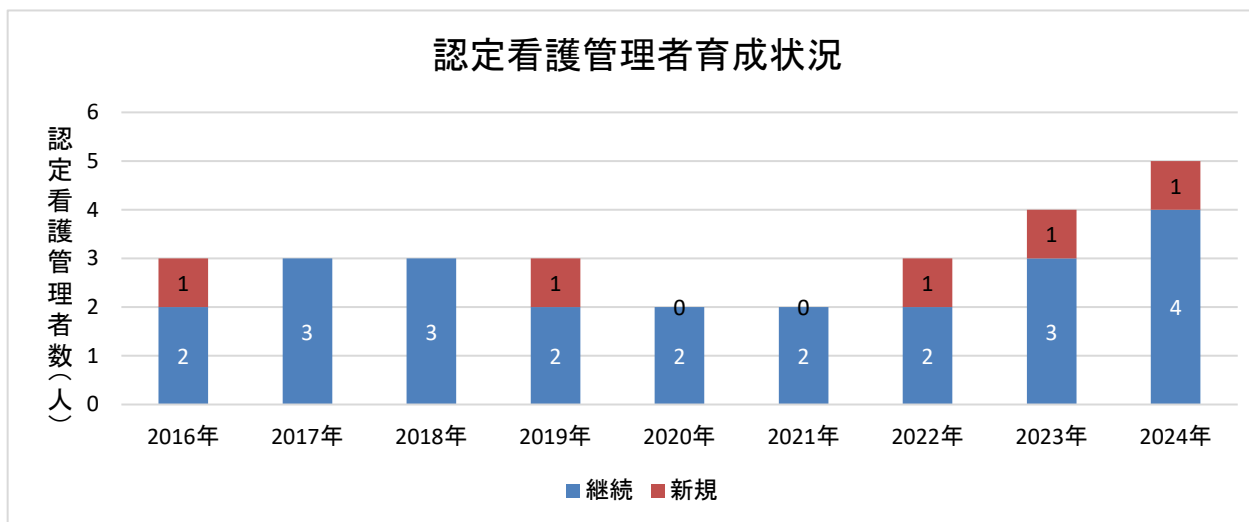
キャリアアップ支援に関わる数値

各種研修受講や資格の取得、進学、学会参加や発表などに対して、様々な支援をしています。研修のレベルや取得を目指す資格の種類等によって支援内容は異なりますが、勤務上や経済面の支援をしています。支援対象者の決定は当院のキャリア開発ラダーのレベルで判断しています。

➤ 認定看護管理研修修了者数



➤ 認定看護管理者数

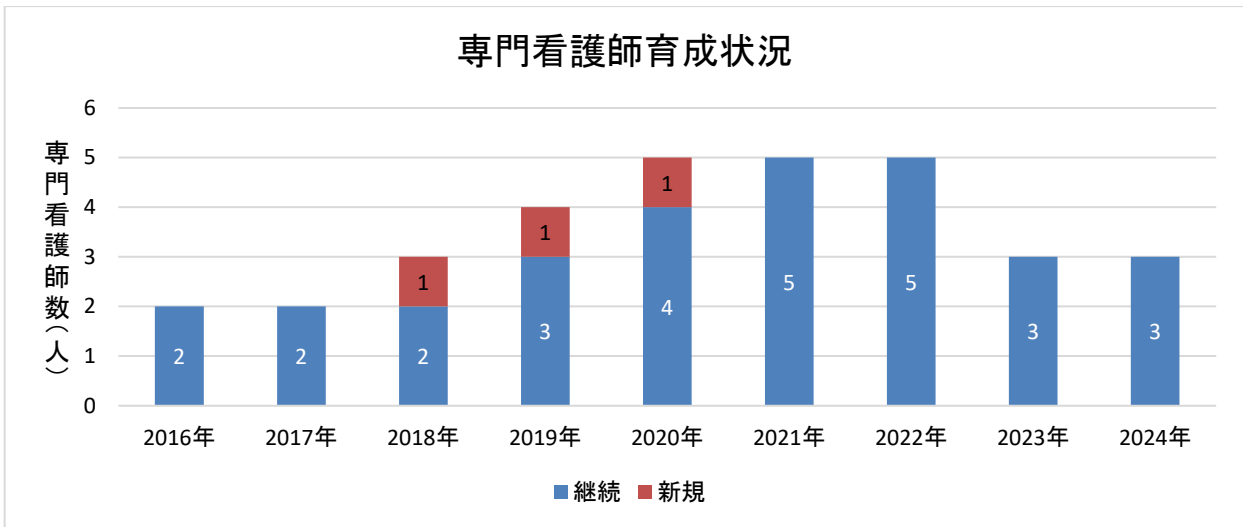


➤ 常勤看護職員数に対する認定看護管理者の率

当院の認定看護管理者は5名おり、常勤看護職員数に対する率は8.1%で、日本看護協会 DiNQL 中央値（2024年度）は5.3%です。

➤ 専門看護師数

注) 新規認定者数はすなわち教育課程への支援をした数として、グラフ化しました。

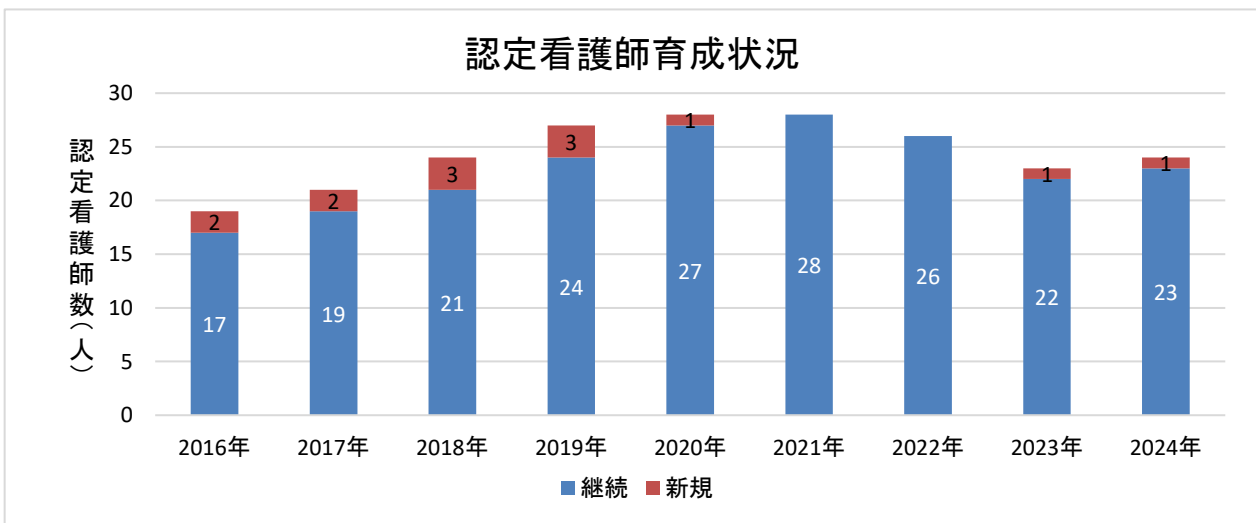


➤ 常勤看護職員数に対する専門看護師の率

当院の専門看護師は3名で、常勤看護職員数に対する率は5.0%で、日本看護協会 DiNQL 中央値 (2024 年度) 0.00%より高い状況です。

➤ 認定看護師数

注) 新規認定者数はすなわち教育課程への支援をした数として、グラフ化しました。

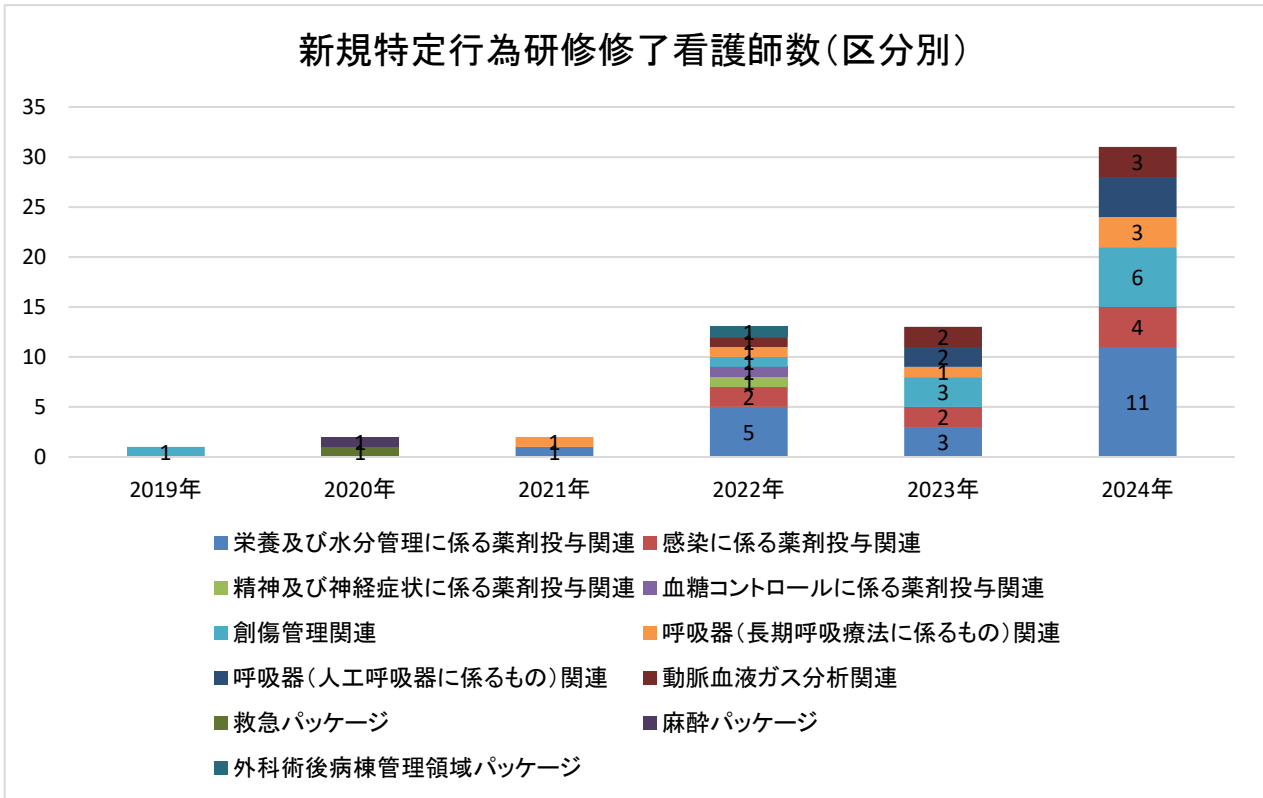


➤ 常勤看護職員数に対する認定看護師の率

認定看護師は現在24名です。常勤看護職員数に対する率は39.9%で、日本看護協会 DiNQL 中央値 28.7% (2024 年度) より高い状況です。

➤ 特定行為研修を修了した看護師数

特定行為研修を修了した看護師は現在 22 名（うち認定看護師 9 名）です。



➤ 院内登録看護師(院内認定制度)

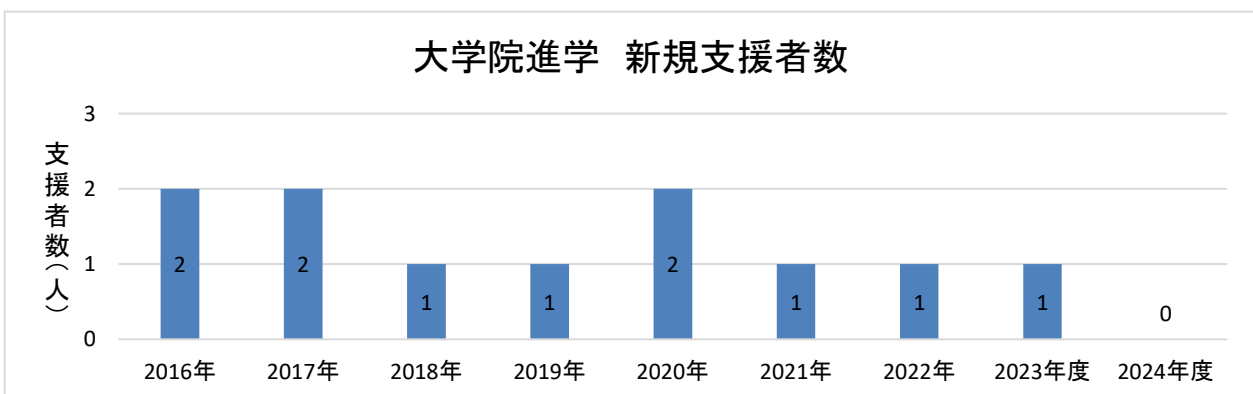
当院では、「褥瘡ケア」「感染管理」「療養支援」「緩和ケア」「高齢者ケア」について認定審査の仕組みを作り、登録看護師として院内で活動しながら次のステップへ進める支援もあります。

・令和 7 年 7 月現在、「褥瘡ケア」6 名、「療養支援」6 名、「緩和ケア」1 名、「高齢者ケア」10 名が活躍しています。

➤ IV ナース (IV ナース制度)

当院では、造影剤・RI 製剤・抗がん剤の静脈注射に伴う血管確保を実施する看護師を育成するための教育システムを整えています。中でも抗がん剤の静脈注射については認定制として質の保証をしています。

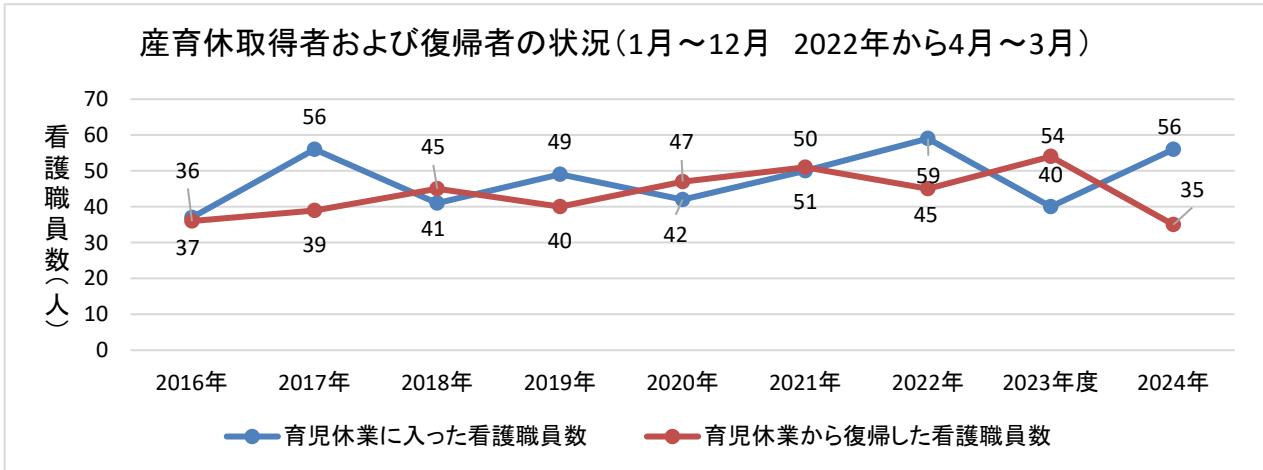
➤ 大学院進学支援状況



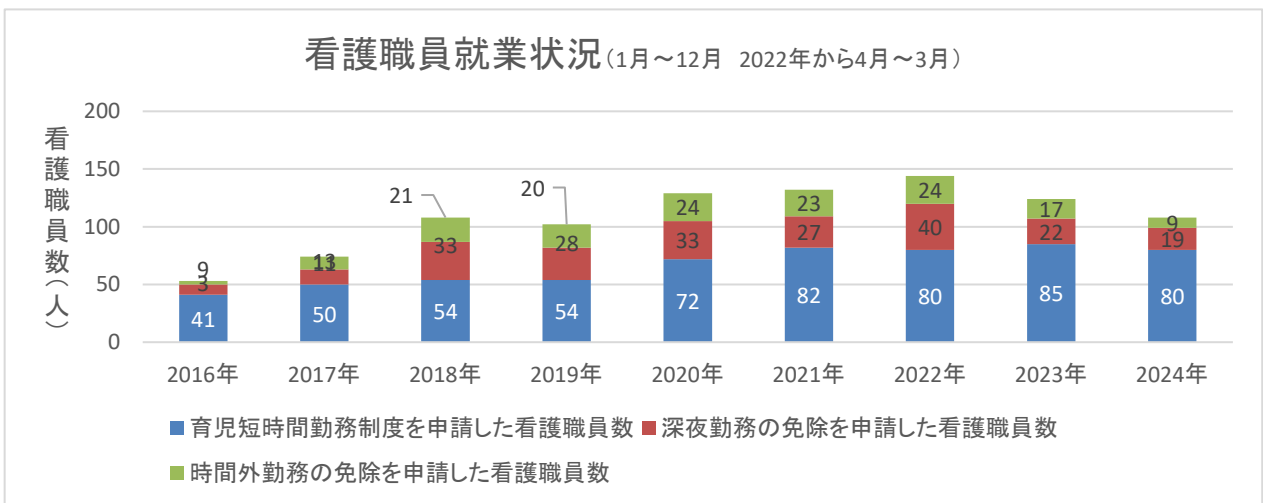
ワークライフバランス支援に関する数値

交代制勤務の体制見直しや業務整理、看護提供方式の変更などで仕事の効率化を図ると共に、子育て・介護をしながら働き続けることができる職場環境づくりに取り組んでいます。

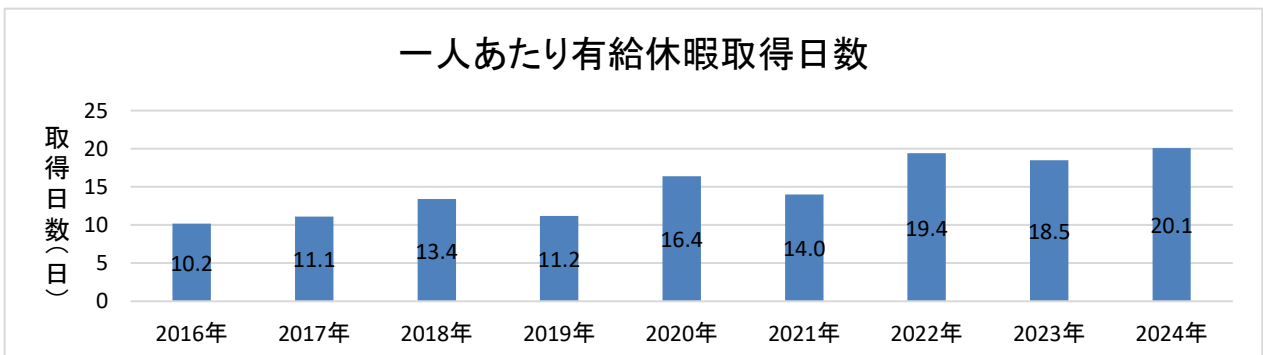
➤ 看護職員の産前休暇・育児休業取得、職場復帰状況



➤ 看護職員就労状況(育児短時間制度・深夜免除・時間外免除)



➤ 看護職員有給休暇取得状況



救急・急性期看護の強化に関する数値

様々な救急の場面に対応できるよう、BLS/ICLS/ILSL/NCPR/JNTEC等々の普及や指導者の育成などに取り組んでいます。

▶ 各種インストラクター数

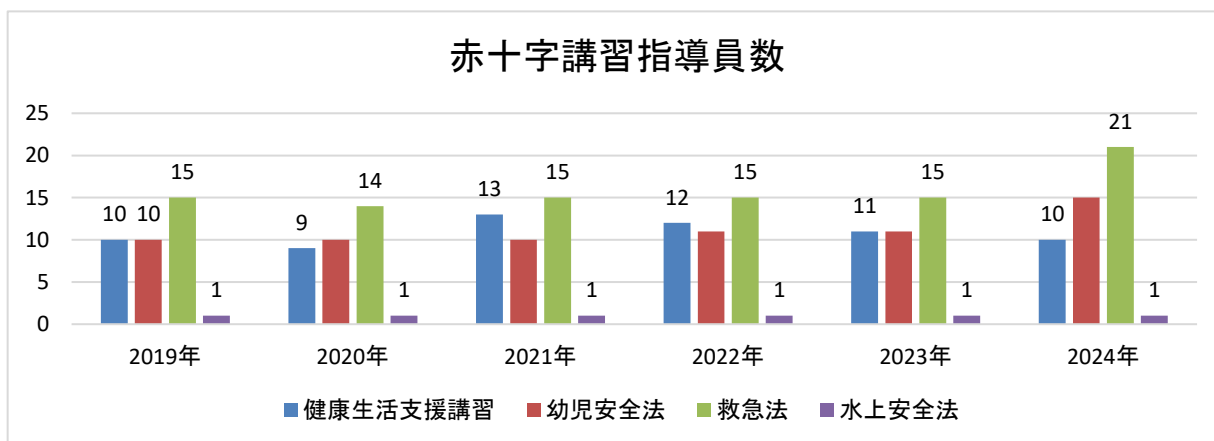
2025年7月調べ

・ICLS 16名 ・NCPR 7名 ・ISLS2名 ・JNTEC 1名 ・JPTEC 1名

赤十字活動に関する数値

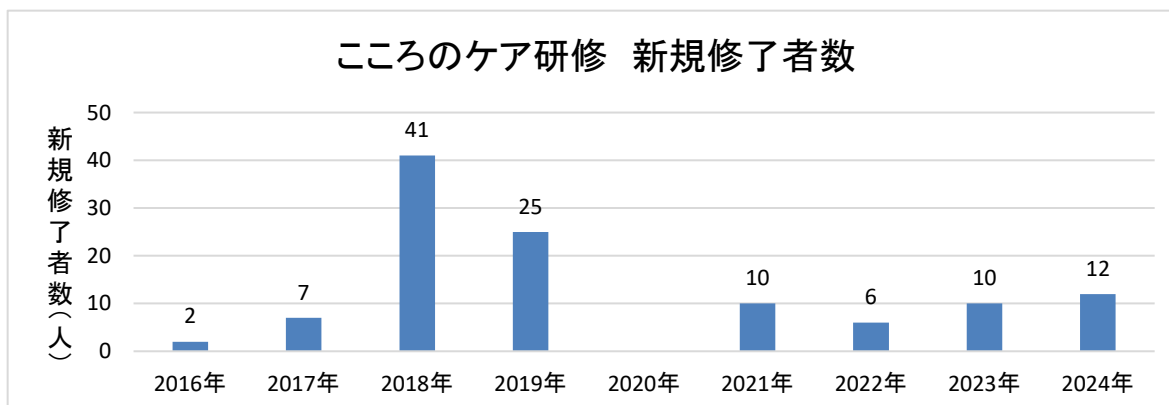
赤十字施設としての使命である災害救護に関しては、平時から救護看護師育成、指導者育成に取り組んでいます。また、災害発生時は被災地において救護活動や医療施設支援、健康支援活動への協力等を行っています。

▶ 赤十字講習指導員育成状況



▶ 災害時こころのケア研修修了状況

災害時こころのケア研修は毎年受講者があり、2018年から管理者を対象に受講を推奨した結果、飛躍的に修了者が増加しています。



▶ 最近の災害救護活動の実績（数値は看護師数のみ）

2011年（平成23年）東日本大震災

- ・DMAT 1隊・看護師計4名
- ・救護班 計8班・看護師計30名
- ・こころのケア 看護師計4名
- ・病院支援 看護師計2名

2014年（平成26年）広島県大雨災害

- ・救護班 1班（看護師3名）＋こころのケア要員（看護師1名）

2016年（平成28年）熊本地震災害

- ・DMAT 1隊 看護師3名
- ・救護班 計3班 看護師計9名
- ・病院支援 看護師計3名

2018年（平成30年）7月豪雨災害

- ・救護班 計2班 看護師計6名
- ・こころのケア 看護師1名

2021年（令和3年）COVID-19関連看護師派遣

- ・病院支援（大阪府、沖縄県） 看護師3名
- ・施設支援（東京都） 看護師1名

2024年（令和6年）能登半島地震

- ・DMAT 1隊・看護師3名
- ・救護班 1班・看護師3名
- ・災害コーディネーターチーム 看護師2名
- ・病院支援 看護師2名